第24講　実践演習(3)

一　文章を読んで、次の問い（**問一**〜**六**）に答えよ。問題文の前半は口語訳になっている。設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

子張（春秋時代、魯（ろ）の国の賢人）が魯の哀公に会見を求めた。七日待ったが哀公は面会しようとしない。そこで子張は取り次ぎの者に、次のような伝言を託して立ち去った。

「私は殿様が賢士を好むと聞きましたので、千里の道を遠しとせず、霜露にもめげず、塵垢（じんこう）（つちぼこり）をものともせず、長い道のりのため足にまめを作っても休みもしないで、殿様に会見しようとやって参りました。ところが殿様は七日経（た）っても私を士としてもてなしてくださいません。殿様が賢士を好むという話は、どうやらあの葉公子高（しょうこうしこう）（楚（そ）の葉県の長官）が竜を好んだという話に似ております。

葉公子高好ミレ竜ヲ、鉤（おびどめ）ニハ以テ写シレ竜ヲ、鑿（ほりもの）ニハ以テ写シレ竜ヲ、屋室ノ雕文（かざりつけ）ニハ以テ写スレ竜ヲ。於イテレ是（ここ）ニ夫（か）ノ竜聞キテ而下リレ之ニ、A窺頭於牖（まど）、施尾於堂。葉公見ルヤレ之ヲ、B棄（す）テテ而還走シ、失ヒ二其ノ魂魄（こんぱく）ヲ一、五色無シレ主。(注)是レ葉公非ザルレ好ムニレ竜ヲ也、C好二夫似レ竜而非レ竜者一也。今、臣聞ク二君ノ好ムヲレ士ヲ、故ニ不レ遠シトセ二千里之外ヲ一、以テ見（まみ）エントスルモレ君ニ、七日D不レ礼セ。君ハ非ザルレ好ムニレ士ヲ也、好二夫似レ士而非レ士者一也。」

（劉向（りゅうきょう）『新序』による）

（注）五色無レ主――顔色を失うさま。

問一　傍線部Aは「頭を牖（まど）に窺（のぞ）かせ、尾を堂に施（ひ）く。」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 窺レ頭二於牖（まど）一、施レ尾二於堂一。
② 窺二頭於一牖（まど）、施二尾於一堂。
③ 窺レ頭レ於レ牖（まど）、施レ尾レ於レ堂。
④ 窺二頭於牖（まど）一、施二尾於堂一。
⑤ 窺二頭レ於牖（まど）一、施二尾レ於堂一。

問二　傍線部B「棄（すテテ）而還走（シ）、」とはどういう様子を述べたものか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 席を立って、小走りに竜を出迎える様子。
② 竜に背を向け、慌てて堂から逃げ出す様子。
③ 手にしたものを投げ捨て、竜に走り寄る様子。
④ 武器を捨て、素手で竜を追いかけ回している様子。
⑤ 竜に対して腹を立て、足早に堂から退出する様子。

問三　傍線部Ｃ「好(二)夫似(レ)竜而非(レ)竜者(一)也。」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 夫（か）の竜に似て竜に非（あら）ざる者を好むなり。
② 夫の竜は竜に非ざる者を好むに似たり。
③ 夫の竜に似たる者を好むは竜に非ざるなり。
④ 夫の竜に非ざる者を好むは竜に似たればなり。
⑤ 夫の竜に似たるは而（なんぢ）の竜に非ざる者を好むなり。

問四　傍線部Ｄ「不(レ)礼(セ)。」とは、どういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 哀公が竜を礼遇しないこと。
② 哀公が子張を礼遇しないこと。
③ 葉公子高が竜を礼遇しないこと。
④ 葉公子高が子張を礼遇しないこと。
⑤ 取り次ぎの者が子張を礼遇しないこと。

問五　本文の内容に合うものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 葉公子高が竜を扱う態度は、哀公が士を扱う態度を手本としたものである。
② 哀公は賢士を排斥したが、それは葉公子高が竜を撃退したのと同様である。
③ 子張は、哀公が口先だけで士を好むさまを、葉公子高が竜を好む話に喩(たと)えて非難した。
④ 取り次ぎの者は子張を歓待したが、それは葉公子高が竜を歓待したのとよく似ている。
⑤ 子張は、葉公子高をほめたたえることによって、哀公が自分を門前払いしたことを批判した。

問六　この葉公子高の話から「葉公好ムレ竜ヲ」という成句ができたが、それはどういう意味を表すと考えられるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 似た者同士は集まりやすいという意味。
② 実際は下手なのに、上手なふりをするという意味。
③ 立派な人物は危険なものに近寄らないという意味。
④ 良いことが続くと悪いことも起こりやすいという意味。
⑤ ただうわべを飾っているだけで、実質が伴わないという意味。

二　文章を読んで、次の問い（**問一**～**六**）に答えよ。（設問の都合で返り点と送り仮名を省いたところがある。）

楊光遠(注1)之叛青州也、有孫中舎(注2)居囲城中。族人(注3)在州西別墅(注4)。城閉既久、内外隔絶、(ア)食且尽、挙ⓐ族愁嘆。有畜犬傍徨(注5)其側、若有憂思。A中舎因嘱曰、「爾能為我至荘(注6)取米邪。」犬揺尾応之。至夜、為置一布嚢(注7)、并ⓑ簡繋犬背上。(イ)犬即由水竇出、至荘、鳴吠。居者開門、識其犬、取簡視之、B令負米還投暁入城。如此数月、比至城開、C孫氏闔門(注8)数十口独得不餒。

（王闢之『澠水燕談録』による）

（注）
1　楊光遠――人名。このとき、五代の後晋王朝にそむき、青州のまちを占拠していた。
2　孫中舎――人名。後晋王朝に仕える青州の役人。
3　族人――親戚。
4　別墅――別荘。荘園。
5　傍徨――歩き回る。
6　荘――別墅に同じ。
7　布嚢――布の袋。
8　闔門――一家全員。

問一　二重傍線部ⓐ「挙」・ⓑ「簡」と同じ意味の「挙」「簡」を含む熟語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

ⓐ「挙」

①　挙動　②　挙国　③　挙手
④　選挙　⑤　快挙

ⓑ「簡」

①　簡略　②　簡潔　③　簡便
④　繁簡　⑤　書簡

問二　波線部(ア)「食且ニレ尽キント」・(イ)「即チ由(よ)リ二水(すい)竇(とう)一出デ」の解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア)「食且レ尽」

①　食糧の補給がしばらく途絶えたために
②　食糧はまだまだ十分あるはずだと思い
③　食糧でさえ極めてとぼしい事態なので
④　食糧がいよいよ無くなりそうになって
⑤　食糧がもしも絶たれてしまったならば

(イ)「即由㆓水竇㆒出」

① ようやく水路をくぐり抜け
② 一目散に水路へと駆け出し
③ からくも水路にたどり着き
④ 何度も水路伝いに逃げ切り
⑤ すぐさま水路から抜け出し

問三　傍線部A「中舎因(リテ)嘱(たのミテ)曰(ハク)」とあるが、孫中舎は飼い犬に何をさせようとしたのか。その内容として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 城外との連絡を絶たれた孫中舎たちを救うため、別荘から食糧を運んで来ること。
② 城外との連絡を絶たれた孫中舎たちを逃がすため、別荘から武器を盗み出すこと。
③ 青州のまちを占拠した楊光遠と和睦(わぼく)するため、別荘から金品を運び込ませること。
④ 青州のまちを占拠した楊光遠を苦しめるため、敵陣にある食糧を盗み出すこと。
⑤ 青州のまちを占拠した楊光遠に抵抗するため、敵陣から武器を盗んで来ること。

問四　傍線部Ｂ「令負米還投暁入城」は、「米を負ひて還(かへ)り暁に投(いた)りて城に入らしむ」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 令二負レ米還投一レ暁入レ城
② 令二負レ米還投レ暁入一レ城
③ 令三負レ米還二投レ暁入一レ城
④ 令レ負レ米還レ投レ暁入レ城
⑤ 令レ負レ米還投レ暁入レ城

問五　傍線部Ｃ「孫氏ノ闔(かふ)門(もん)数十口独リ得レ不レ餒(う)ヱルヲ」の解釈として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 孫中舎の一家数十人のうち、誰(だれ)ひとり最後まで生き残った者は無かった。
② 孫中舎の一家数十人のうち、結局ひとりだけが飢え死にせずに済んだ。
③ 孫中舎の一家数十人だけは、城内でかろうじて飢えに苦しまずに済んだ。
④ 孫中舎の一家のみならず、城内では誰ひとり飢えに苦しむ者は無かった。
⑤ 孫中舎の一家のほか、わずか数十家族だけが、飢え死にせずに済んだ。

問六　本文の内容に合致するものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 州の西郊外の別荘に住み着いていた犬が、孫中舎一家を助けるため、何か月もかかって主人のもとに走った。
② 孫中舎の飼っていた犬は、主人を励まそうと、けなげに尾を振り、夜には忍び込んできた敵に吠えかかった。
③ 飼い犬を見知っていた者は、ただちに孫中舎の窮状を理解したが、結局は犬を敵陣へと追い返してしまった。
④ 反乱が終息して城門が開くまでの間、飼い犬は、青州のまちと州の西郊外の別荘との間を何度も行き来した。
⑤ 一晩中走り続けた飼い犬の美談は、孫中舎の親戚たちにもいち早く伝えられ、彼らをしみじみと感動させた。

〈Memo〉

第24講　確認問題

① 「好二夫似レ士而非レ士者一也。」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　夫(か)の士は士に非(あら)ざる者を好むに似たり。

イ　夫の士に似たる者を好むは士に非ざるなり。

ウ　夫の士に似て士に非ざる者を好むなり。

エ　夫の士に非ざる者を好むは士に似たればなり。

② 「吾将レ迎レ之」の書き下し文と解釈の組合せとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　吾、之を将迎せんと
　　私が彼を送迎するつもりだ、と。

イ　吾、将(ひき)ゐて之を迎へんと
　　私が彼を連れて出迎えよう、と。

ウ　吾、将に之を迎へんとすと
　　私が彼を迎えるつもりだ、と。

エ　吾、之を迎へて将ゐると
　　私が彼を迎えて引き連れるつもりだ、と。

〈Memo〉

第24講　解答

一

問一 ④　問二 ②　問三 ①

問四 ②　問五 ③　問六 ⑤

二

問一 ⓐ ②　ⓑ ⑤　問二 (ア) ④　(イ) ⑤

問三 ①　問四 ②　問五 ③　問六 ④

〔現代語訳〕

一

葉公子高が竜を好んで、帯どめには竜（の絵）を写して、彫物にも竜（の絵）を写して、屋根や室内の装飾にも竜（の絵）を写した。そこでこの（本物の）竜が（このことを）聞いて、ここ〔＝葉公子高のところ〕に（天から）下りてきて、頭を窓に覗かせて、尾を堂に引きずった。葉公子高はこれを見ると、竜に背を向け、慌てて堂から逃げ出し、魂を失い〔＝気が動転し〕、顔色を失った。これは葉公子高は竜を好んでいるのではなく、竜に似ているが（本物の）竜ではないものを好んでいたのである。今、私は殿様〔＝哀公〕が賢士を好むと聞きました。だから千里の道を遠いとも思わず、殿様に拝謁しようとしましたが、七日間経っても（殿様は私を）礼遇してくれません。殿様は賢士を好むのではなく、賢士に似ていて賢士ではないものを好んでいるのであります。」

二

楊光遠が（反乱を起こし）青州の町を占拠したとき、孫中舎は包囲された青州の町の中にいた。（孫中舎の）親戚が青州の西（郊外）の別荘にいた。町は閉鎖してすでに長い時間が経ち、町の外との連絡を完全に絶たれ、食糧がいよいよ無くなりそうになって、孫中舎の家の者は皆、嘆き悲しんだ。（孫中舎には）飼い犬がいて孫中舎の周囲を歩き回り、心配しているように見えた。そこで孫中舎は（犬に）頼んで言うことには、「おまえは私のために（親戚の）別荘に行き米を取ってきてくれるか」と。犬はしっぽをふってこれに答えた。夜になると、一枚の布の袋を用意し、手紙とともに犬の背中にしばりつけた。犬はすぐさま水路から抜けだし、別荘に行き、鳴いて吠えた。別荘にいた（親戚の）者が門を開け、その犬が孫中舎の犬だと気づき、手紙をとってこれを読むと、（親戚の者は）米を（犬に）背負わせて帰らせ夜明け前の時間に町の中に入らせた。このように〔＝犬に青州の町と西郊外の別荘との間を何回も行き来させ食糧を運ばせたこと〕数ヶ月間、（反乱が終わり）町の門が開くまでの間、孫中舎の一家数十人だけは、飢えずにすんだのであった。

第24講　確認問題　解答

〔解説〕

① 返り点がついていない「夫」→「士」を読んだら、「士」の上の「似」にレ点がついているので、「士」から戻って「似」を読む。したがって、アとエは不適。次の「而」は置き字。その次に、返り点がついていない下の方の「士」を読み、「士」の上の「非」にレ点がついているので、「士」から返って「非」を読む。よって、正解はウ。

② 返り点通りに読めていないアとイは不適。「将」は再読文字で「まさニ～ントす」と読み、「今にも～しそう・だろう」（これから～するつもりだ）の意味。ウもエも、どちらも「～つもりだ」という訳であることから、「将」は再読文字だと判断する。よって、正解はウ。「将」には再読文字以外の読み「はタ」や「もつテ」もあるが、問題になっていれば、まずは再読文字から考えること。

〔解答〕

① ウ　② ウ